

# 安心をつなぐ 地域のチカラ

—防災を考える—

特集



令和7年度三瀬地区防災避難訓練



三和地区で救助に向かう消防隊

もし今、大きな揺れや大雨に見舞われたら、あなたが真っ先に助けを求める人は誰ですか？

市内では、災害などに備えた体制づくりが進められています。大雨の浸水被害に備える藤島地域三和地区、津波避難の仕組みを整える三瀬地区、高齢者世帯の除雪を子供たちとともに支える第一学区など、住民の安心を支える地域の活動を紹介します。

「これからできること」を見つけるために、まずは地域を知ることから始めてみませんか。あなたの小さな一歩が、きっと誰かの笑顔や安心につながります。

問合せ 本所防災安全課 ☎35-1204

## 親戚や友人宅などへの避難も選択肢に

### 昔から洪水の常襲地

藤島地域三和地区は、昔から京田川の氾濫による洪水に見舞われ、田畑の冠水や床上浸水などに悩まされてきました。昭和30年代に京田川の改修工事が行われ、川の氾濫は縮小。近年は収まりを見せていましたが、過去に例を見ない令和6年7月25日・26日の豪雨によって、氾濫危険水位3・30mを大幅に超える5・20m（26日午前4時頃）を記録しました。

避難状況を三和町内会長の



藤島地域三和町内会長  
たなか じゅういち  
田中 壽一さん

田中壽一さんに伺いました。

### 近所で声を掛け合い避難

「前任の町内会長や役員が消防団などと連携し、25日から町内会会館に待機して、すぐに動ける体制でした。避難指示が出されたときは、各区分長を中心に高齢者などの要配慮者に声を掛け、車で避難所に連れて行きました。地区内のほとんどの人が顔見知りですし、平日日中の在宅の有無、一人暮らしの方などを記した地区の住民台帳を毎年更新しているので迅速に避難を促せました」。

### 親戚宅などへの避難を検討

藤島地区地域活動センターには延べ61人が避難しました。26日、雨が小降りになっ



床上浸水が発生（令和6年7月25日）

ても、なかなか避難指示が解けなかったことから、「自宅が心配だ」、「自宅でゆっくり休みたい」など、「帰りたい」という声が多数寄せられたそうです。

「精神的、身体的な負担を考えると、市が指定する避難所だけでなく、親戚宅や友人宅などへの避難も選択肢の一つとして考えていく必要があると感じています」。

## 寒さと空腹への対応を考えていきたい

### お正月に発生した地震

令和6年1月1日午後4時10分に発生した能登半島地震。市内では震度4を観測し、津波に関する警報が発表されました。市は、4時22分に沿岸

### 迅速な避難は訓練の成果

三瀬地区では、豊浦中学校や三瀬駅などに、合わせて約350人が避難しました。三瀬地区自治会事務局の佐藤理沙さんは、家族の安全を確認するとすぐに三瀬コミュニティセンターに駆け付けました。

みんなで除雪をしたのが楽しかったし、「ありがとう」と言ってもらえて、うれしかったです。



冬期ボランティア体験参加  
いないずみ ひすい  
稲泉 妃珀さん (小6)



高齢者世帯の玄関前を除雪 (第一学区)



令和6年1月1日に発生した能登半島地震で豊浦中学校に避難する地域住民

「三瀬コミュニティセンターでは、各区長と連絡を取り合い、逃げ遅れた人やけがをした人はいないか避難状況を確認しました。お正月で多くの人が家にいたので、みんなが声を掛け合い、毎年実施している防災避難訓練の通り、迅速に避難できました」。

**避難所では中学生が活躍**

「豊浦中学校には、車中避難者も含めて約230人が避難しました。中学生たちが防災倉庫からマットや暖房器具を

**子供たちのボランティア活動が安心につながる**

**大人と一緒に玄関前を除雪**

鶴岡地域の第一学区コミュニティ振興会では、子供たちに高齢者世帯や町内会の活動を知ってもらい、自分の住むまちを見つめるきっかけにしてもらおうと、平成17年度からボランティア体験事業を行っています。

冬期ボランティア体験事業では、町内会の大人と一緒に高齢者世帯などの玄関前除雪を行います。今冬は、4人の小・中学生が、ボランティアの心構えの講習を受けた後、



三瀬地区自治会事務局  
さとう りさ  
佐藤 理沙さん

出したり、飲み物を配ったり、自分たちができることを見つけて取り組んでくれました」。

豊浦中学校では、毎年中学校体育館に避難所を設営する避難所運営訓練を実施しています。その成果が有事に生かされました。

1月〜2月に活動しました。

**支援されている安心感**

市内日枝で一人暮らしをしている小竹喜恵さんは、除雪をしてくれるボランティアの方々に「ありがとう」と声を掛けながら作業を見守っていただきました。

「毎年、海老島町内会の除雪支援にお世話になっていきます。昔より地域のお付き合いが少なくなっている中で、ボランティア活動をしてくれる子供さんがいてくれてうれしいで

**食糧の提供ができるように**

各避難場所には、着の身着のまま避難をしたものの、夕食前の時間だったこともあり、寒さと空腹に耐えきれず、避難指示が解除される前に自宅に戻ってしまう方もいたそうです。

「自宅に戻れた人たちが何事もなく無事で本当に良かったです。各避難所に温かい毛布や食糧を提供したかったのですが、在庫が少なく対応できなかつたのが、今後の課題と考えています」。

すね。来てくれた子供たちと話す元気ももらえます」。

近所の方や近くに住む娘さんから気にかけてもらいながら、冬でも買物や通院などぶだんと変わらない生活が送れている小竹さん。「地域の皆さんに『守られている』と実感できて、安心して暮らせませす。」と話していました。



おだけ きえ  
小竹 喜恵さん